

兵庫・前東代遺跡
まえひがしろ

- 1 所在地 兵庫県姫路市御国野町深志野
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)六月～九月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 西口和彦・水口富夫
- 5 遺跡の種類 旧河川跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代、奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

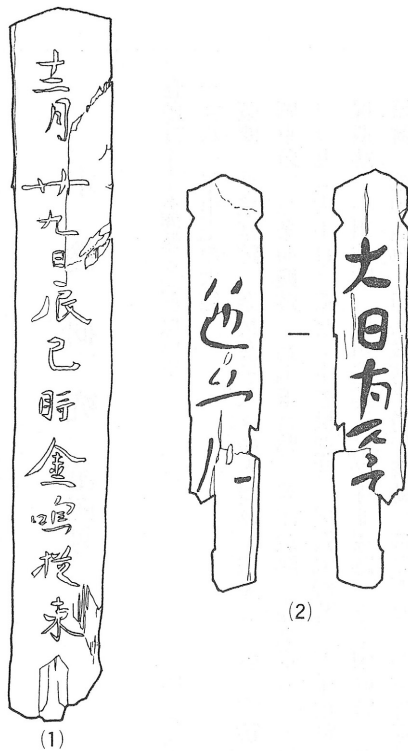


前東代遺跡は、姫路市東部に位置し、西方約1kmに壇場山古墳や播磨国分寺が所在している。また、南に御着城があり、発掘調査の

(姫路)

当初は、御着城の外濠検出を目指して開始した。兵庫県道路公社による播但連絡有料自動車道の建設が、御着城の外濠跡と想定される所に予定されたので、兵庫県教育委員会は遺跡の事前発掘調査を実施した。

当初は、御着城の外濠検出を目指して開始した。兵庫県道路公社による播但連絡有料自動車道の建設が、御着城の外濠跡と想定される所に予定されたので、兵庫県教育委員会は遺跡の事前発掘調査を実施した。



現地は、北西から南東にかけ約二〇〇m間に、幅約一〇～一五mの凹地が続いていた。調査によって、この凹地は平安時代後期には埋没した旧河道と判明し、またこの河に合流する大溝も検出した。以下に報告する木簡は、この大溝が旧河道に流入する付近で出土したものである。木簡以外に、大溝や旧河道から出土した遺物には、弥生式土器・土師器・須恵器の土器類、大形蛤刃石斧、二又鋤や曲物容器・下駄等の木製品がある。さらに、底部外面に「十」の墨書のある須恵器杯が出土している。木簡以外では、頭部や両側部を削った人形が二点、用途不明木製品(櫛扇カ)一点、(2)と同じ形態の木札が一点出土している。内容や形態からこれら木札は板塔婆および呪符の類と考える。

調査の結果、御着城の外濠は認められず、旧河道の検出のみに終わった。また、住居跡等の生活跡も調査範囲内では検出されなかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「十二月廿九日辰巳時金^{〔鴨カ〕}從東 (416)×57×11 019

(2) ・^{〔言カ〕}大日真[□]

・^{〔牟尼カ〕}尺迦^{□□}

(116)×20×5 039

(1)は、墨が流出し、文字が木面より浮きあがっている。裏面には墨書は認められない。

(2)は、赤外線テレビにより判明したものである。

(1)・(2)とも釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏の御教示をいただいた。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『前東代遺跡』(一九八五年)

(西口和彦)